

Motorcycle Information

モーターサイクルインフォメーション

いま二輪車の周辺では

2015年

7月

(第326号)

本誌のホームページ版

www.mc-info.jp

写真のダウンロードや
バックナンバーの検索・閲覧
が可能です。ぜひご一読ください。

バイクは友だちに
会いに行くための
ツールです。p.1



特集

二輪車の人気アップに貢献！ バイク大好き“理系男子” …… 1

理系大学の男子学生にはバイク好きが多く、周りにも仲間を増やす“キーユーザー”として期待される。理系大学の“バイク好き男子”を訪ねて彼らのバイクライフを覗いてみた。

ズームアップ

全国でバイクイベントを開催 7～9月はバイク月間 …… 8

二輪車業界は、業界を挙げてバイクイベントやユーザーサービスを実施するバイク月間が始まった。ツーリングや交通安全パレードなど、いま、いちばんホットな業界活動を紹介する。

トピックス

1- 白熱必至！ 鈴鹿8時間耐久ロードレース (7/23～26) …… 14

2- 千葉県の私立高校「三ない」見直し バイクの安全運転教育を推進 …… 15

二輪車関係企業・団体 …… 巻末

キャンパスに450台収容可能
神奈川工科大学のバイク駐車場
1頁



駐車場を探すならココ!

全国のバイク駐車場案内

Ridership

バイクが好き、だから、誇りと責任ある走り。

グッドマナー
JAPAN
RIDERS

発行

一般社団法人 日本自動車工業会

〒105-0012

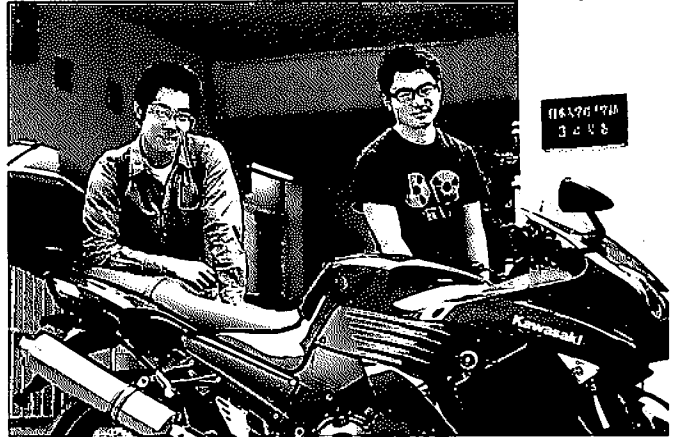
東京都港区芝大門1-1-30

日本自動車会館

TEL.03-5405-6119 (広報室)

URL <http://www.jama.or.jp>

GN125 (125cc) をそれぞれ1台ずつ購入し、二人でメンテナンスを学びながら、部品の働きや仕組みに関する話をするだけでも1日があっという間に過ぎるといふ。



二人でいるとバイクの話が止まらない

魚谷さんは、「自分で整備したマシンで出かけるツーリングは格別な感じがしますね。125ccは高速道路を走れないので、気に入った景色の

場所でちょこちょこ休みながら移動できるのが楽しいんです。休むたびにスマホで景色を撮影したりして、何か充実した感じがします」と話す。

走ることにかけては、坂本さんも一段と熱く語る。坂本さんは、カワサキのスポーツツアラーZZ-R1100 (1,100cc) も所有しており、機会あるごとにバイクで出かけ、1カ月の走行距離は1,000kmを超えるという。

「とにかく走ること自体が好きなので、奥多摩方面、房総方面、伊豆方面など、思い立ったら片道100～200kmは軽く走ります。目的地があるわけではなく、走りたいルートを決めてただひたすら走るだけ。ライディングを上達させたいので、いつも理想的な走りをイメージして集中して走っています」

魚谷さんは、「大学生活は、勉強や研究で忙しくてストレスも溜まりますが、休みの日にバイクに触ったり走ったりすれば、気分がリフレッシュできます」と、精神的な面での効用が一番だと話す。

学業もプライベートもまさにバイク一色の二人。「学生にとって、バイクは移動手段として経済的だし、こんなに便利で楽しい乗り物はありません。周りにもバイクの面白さを伝えたい」と、話していた。

ハードな学生生活を支えてくれる——東京理科大学のバイク好き男子

理系大学では、一般的に4年生になるとゼミに所属して研究テーマを持ち、論文を読んだり実験を繰り返してレポートを書く作業が増える。さらに平行して就職活動を行ったり、あるいは大学院へ進むための勉強に励んだり、日々スケジュールに追われている。学費や生活費をかせぐためのアルバイトが欠かせない学生も多く、かなりハードな毎日を過ごしているようだ。

東京理科大学は、とくに入学してからの試験が厳しく、単位取得の難しい大学として知られる。理工学部土木工学科（千葉県野田市）に通う4年生の東風谷亮太さん（22歳）は、ヤマハのビッグスクーター、マジスティ（250cc）に乗っている。卒業に必要な単位は3年生までにすべて取得し、今年度はコンクリートに関する研究に取り組んでいる。親元を離れて一人住まいのため、家賃を捻出するのに夜遅くまで飲食店でアルバイトをしているともいう。

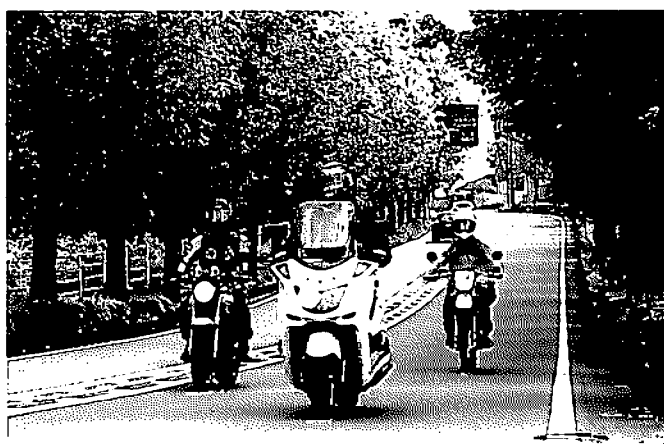


スクーター派の東風谷さん

「ここでは何をするにも移動の距離が長いので、自宅から学校、学校からアルバイト先、たまに実家（横浜市）に帰るときなど、どこに行くのもバイクを使っています。本当はクルマが欲しかったのですが、親から『学生のうちはバイクにきなさい』と言われ、気軽に乗れて便利そうなスクーターを選びました。大学と仕事で目が回るくらい忙しいけど、バイクのおかげで効率的にこなせていると思います」と話す。

まさに生活の道具としてバイクを活用している東風谷さんだが、つい最近、バイクに乗るゼミ内の仲間から「ツーリングに行こう」と誘われ、たまたま休める土日だったので、応じたという。

参加してみると、そのゼミ仲間の父親が属するバイククラブの企画で、沼津の民宿を借り切る30人規模のツーリングだった。「仲間と2、3人で行くものかと思っていたから、中高年のオジサンライダーが大勢いてびっくり。夜は一緒にお酒を飲んだり、風呂に入ったり、年の差を忘れて話ができて面白かったで



初めて仲間とツーリングを楽しんだ

す。それにしても、先頭を走るリーダーのオジサンが、けっこう道に迷うんですよ。スマホで検索すればいいのに、地図を開いてあっちだこっちだ、行きたいところにぜんぜんたどり着けないのが最高でした」と、ハプニングが気に入った様子。

これまでクルマ代わりの乗り物としてバイクを捉えていたが、「ツーリングに行っ
てからは、バイクに人間味を感じています」と話す東風谷さん。初めて参加したツー
リング体験で、バイクへの視野が広がったようだ。

友だちに会いに行くためのツール——東京農工大学のバイク好き男子

東京都小金井市にある東京農工大学工学府
(大学院) 情報工学専攻の石川 剛さん (22歳)
は、修士課程の1年生。スマートフォンを活用して、人間の行動認識を把握・分析する研
究システムの構築に取り組んでいる。



機械好き理系男子・石川さん

「子どものころからオーディオや、クルマ、
バイクなどが大好きでした。機械製品が好き
なんです。叔父の別荘にあったポケバイで遊

んだ原体験があって、ふと『バイクに乗れたらいいなあ』と思って、去年の4月に二
輪免許を取得しました」

石川さんの愛車は、ホンダの軽二輪スポーツ、ホーネット (250cc)。主にツーリン
グに使っているが、バイク好きの友人を誘って仲間同士で出かけることが多い。最近
も高校時代の友だちと一緒に、秩父方面への日帰りツーリングを楽しんできた。

「皆でワイワイやるのが好きな性格です。僕は四輪免許もあるので、友だちを集め
てドライブもしますが、自分だけが運転することになりがちで、楽しめないときもあ
ります。その点バイクなら、仲間と一緒に走っていても、いざとなれば自分のペース
で走れるし、みんな自由に遊んでいる感じがすごく楽しいんです」

いまどきの若者は何でもスマートフ
ォンで済ませてしまう傾向があって、
友だちともラインを通じて“会った気”
になるし、観光地の画像を見て“行っ
た気”になるといわれている。



ツーリングは友だちと一緒に楽しむ

石川さんは、「僕も人一倍スマホを
使うタイプですが、スマホで満足なん
てできませんよ」と笑う。「友だちに
会って話したり、一緒に遊びを楽しみ